



JR東労組 (東日本旅客鉄道労働組合)
 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-24-1
 東日本旅客鉄道株式会社 代々木総合事務所 5階
 電話 03-5315-0941
 発行人 加藤誠 編集人 湯ノ目亜矢子
 毎月1回20日発行/一部20円
 (組合員の購読料は、組合費に含む)

JR東労組ホームページは
 ←こちらからアクセス
<http://www.jreu.or.jp/>



全地本代表者会議 開催

第43回定期大会以降の拡大
 (2024.6.19~)

20名

JR東労組で共に頑張っていきましょう!

12月7日、コロンホールにて「全地本代表者会議」を開催しました。組織課題、業務課題、当面する課題の提起を行い、さらに国際鉄道安全会議で提起した内容を本部から報告しました。

全体討論では21名から発言がありました。JR東海の仲間によって結成された「JRセントラル労働組合」と連携することや、管理者からのパワハラ・暴行の被害者にも関わらず「加害者」とされたことで不当処分・不当転勤が出された八王子地本の仲間と共になにかう決意が全員から述べられました。そして、年末手当と25春闘要員不足や「融合と連携」の課題、組織再編の中における分會活動、組合員との対話、過半数代表者選、組織強化・拡大の取り組み等、職場での実践に基づく教訓が語られました。

1年間のたたかひの総括を行うと共に、認識の一致を図り、当面の節目である2月の定期中央委員会に向けて全組合員でたたかひていくことを確認しました。

八王子地本のたたかひと経営姿勢について

八王子地本・Aさんは被害者なのに加害者にされようとしています。Aさんは、サークルのバスケット部との交流

年末手当のたたかひを通じた25春闘の課題について

年末手当のたたかひでは、会社回答に対して不満の声が多く出され、緊急再申し入れをし、経営姿勢に心一つに立ち向かっていくことができました。緊急アンケートでは、わずか3日間で組合員・未加入者から16387件の不満の声が中央本部に寄せられ、その声を会社につけてきました。しかし、会社はポジティブな意見が一定数いるという認識を示し、回答を再考するつもりはないと頑なな姿勢を貫いてきました。要求実現には至りませんでした。職場と最後までたたかひ抜いたこと、25春闘における課題が明確となったことから受結しました。すでにJR西日本は年間5・2ヶ月と年間臨給です。会社回答では決算の数字からの見解を繰り返し、現場の苦闘を訴えても「受け止める」を繰り返し、「受け入れる」とは述べませんでした。あらかじめ人件費を計画し、それ以上は出さないと発言があり、私たちの構えも従来通りではならぬという事です。

JRセントラル労働組合の結成について

JR東海労の相次ぐ指導放棄やJR総連からの「除名処分」という事態について、悩み考えた結果、組合員の雇用と労働条件、ならびにJR東海の地でJR総連運動を守り、発展させるために、JR東海労を脱退した仲間が11月28日に「JRセントラル労働組合」を結成しました。この勇気ある決断に対して支持し、JR総連への加盟申請を喜んで受け入れていきたいと考えています。

主催者あいさし(要旨)

中央執行委員長 加藤 誠

や、出向先の職場においてバス関東の仲間からあたたかく見守られ、他の人が同じ目にあわぬように抑止力になりたいと言ってくれています。私たちは、全職場で全組合員がいかたたたかひをつくり出していかのか議論を深め、JR東労組らしい連帯の輪をつくり出していかなければなりません。

職場では、慢性的な要員不足の中、「融合と連携」により不慣れな仕事ややりづらい業務の中で、病欠を余儀なくされ、仕事を辞めようかと悩んでいる組合員・社員も少なくありません。そして、管理者によるパワハラや不当労働行為、犯罪行為をした管理者たちを擁護するJR東日本の経営姿勢では、いずれ大事故や、人材倒産の危機に追い込まれてしまうのではないかと不安が一層深まるばかりです。組合員と相互に議論し、連携し、励まし合う、職場で見える運動を、みんなで創意工夫してつくり出し、組織を強化していきましょう。JR東労組運動を通じて、ヒューマンズを基盤においた取り組みを地道につくり出していきましょう。

「JRセントラル労働組合」結成! JR総連に加盟決定!

12月12日にJR総連、第42回臨時大会を開催し、JR東海労の除名を満場一致で確認しました。そして、第43回臨時大会を開催し、JR東海労から決別してJR総連と共に歩んでいく決意をした仲間によって11月28日に結成された「JRセントラル労働組合」のJR総連の加盟が決定しました。新たな仲間と共に、JR総連の旗のもと「抵抗とヒューマンズ」の精神に基づいてたたかひを展開し、組織を守り、組織強化・拡大を実現していきましょう!

主な討論の内容など、2面に続く

- 組織部提起
 - ・組織強化・拡大の取り組みについて
 - ・脱退の問題と課題克服に向けて
 - ・過半数代表者選のたたかひについて
 - ・政治の課題について
- 業務部提起
 - ・年末手当のたたかひの総括について
 - ・各種施策について
 - ・安全問題について
 - ・労使間の取扱いに関する内容について
 - ・懲罰的日勤教育に抗するたたかひについて
- 国際鉄道安全会議で提起した内容
 - ・新幹線の自動運転及び無人運転は「安全上」可能か
 - ・安全よりも運行優先の体質が、鉄道業に何をもたらすのか? 職場で感じる疑問から目を背けず、「責任追及から原因究明へ」の安全哲学の再確立をめざし、安全第一の職場風土をつくりだそう!

赤ペン

「赤ペン」の由来について
 創刊号に携わった方に話を聞きに行った。私たちが取り巻く情勢はどのような方向へ向かっているのかを正しく分析して、今できることを取り組んで未来をより良いものに変えていく位置付けで、赤ペン先生のような意味が込められていたことを知ることができた▼私も親として、子どものテストプリントを採点する時があるが、ちょっとした間違いに対しても正しい答えを覚えてほしいこの思いで赤ペンを入れて、子どもとテストの振り返りをしていく▼職場でのミスについてもお互いに指摘できる環境が必要である。自らの事象について原因究明議論をすることは苦しいが、仲間と本音の議論を通じて事象の原因と自分の弱点に向き合い、同じ過ちを繰り返さないための対策を通じて、いざという時に勇気を持って安全の判断ができると思う▼労働組合は会社へのチェック機能を果たす役割がある。会社による運行優先や事実のねじ曲げなどに対しては、私たちの力を十分に発揮し、安全第一の働きやすい職場をつくり出そう!

(H・S)